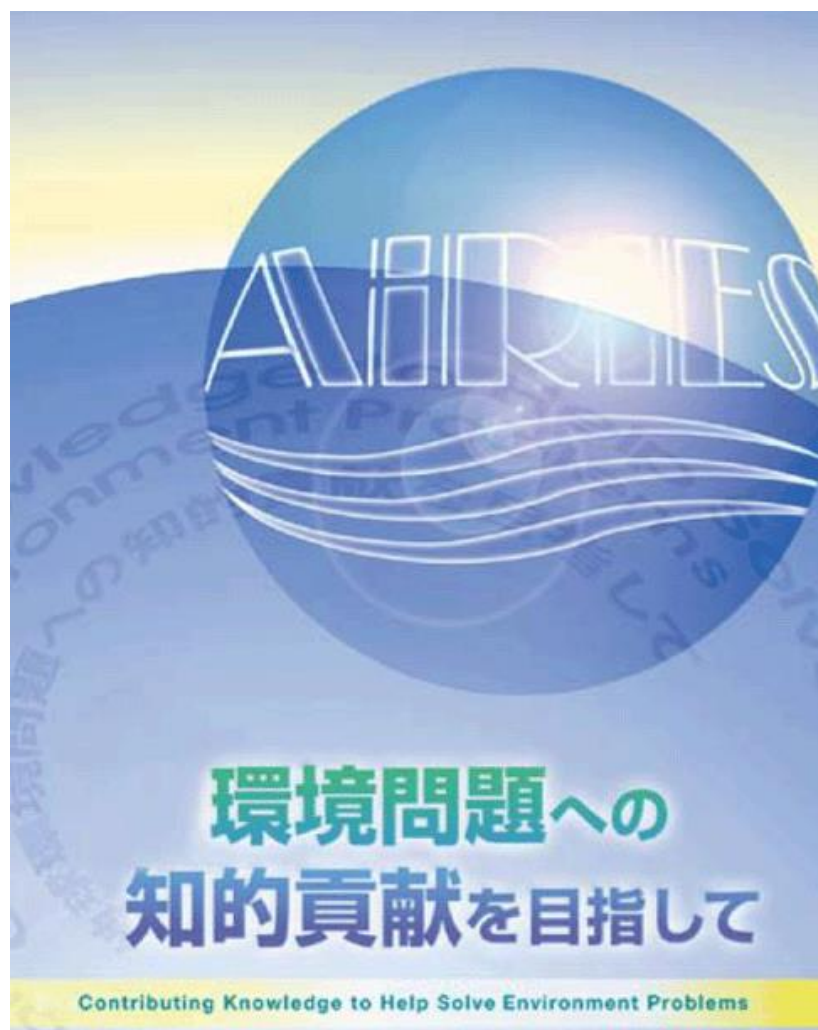


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2022年4月 第310号



CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆 (125) 「食と旅と環境つれづれ話」 (5)
新田 裕史 (環境研究総合推進費プログラムアドバイザー)
- 3 令和3年度 第2回通常理事会報告
- 4 業務報告

協会業務報告

徳田博保(専務理事)

4月になり新年度が始まりますが、3年続けてコロナ禍でのスタートです。

まん延防止等重点措置が解除され、協会近くの上野公園では、花見客が「密」を避けるため一方通行とされた散策路を歩いています。かつては寛永寺境内であった上野の山の桜は、1698年に一般庶民に公開されたそうですが、その後毎春のように花見客が繰り出して来たであろうと思うと、悠久の時の流れを感じなくもありません。

それでも、旧幕府軍と新政府軍の上野戦争、関東大震災、第二次世界大戦など、花見どころではない事態に何度も見舞われてきています。

現在でも世界では大事件が起き続けていて、協会に着任した2015年にはイスラム国がシリアの過半を制圧し、2016年にはバングラデシュの首都ダッカでJICAのプロジェクトに携わっていた日本人7人を含む20人を殺害するなど各地でテロを起こしました。2017年には北朝鮮が大陸間弾道ミサイルの発射実験を繰り返しましたが、2018年に米朝首脳会談が開催され、2019年にトランプ大統領が北朝鮮に赴き、期待を持たせました。2019年に香港で民主化を求めた大規模デモがありましたが、2020年には香港の統制を強化する「香港国家安全維持法」が導入されました。2021年には米軍がアフガニスタンから撤収し、ミャンマーでは軍事クーデターがありました。今年は、ロシア軍がウクライナに侵攻しています。

人類同士の争いに加え、今や新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、オランダやデンマークでは単純計算すると2人に1人が、イギリスやフランスでは3人に1人が感染しているということになります。日本でも、第6波が収束しない中で新規感染者数が上向きに転じたようです。これからはコロナとの共存状態になるのでしょうか。

コロナ関連やロシアによるウクライナ侵攻のニュースが連日紙面のトップを占める中で、大きな報道はなかったようですが、2月末に気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書第2作業部会報告書が公表されました。3月には国連環境総会で、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際約束を作るための政府間交渉委員会の設立が決議されるなど環境関係でも国際的な進展がありました。IPCC第3作業部会報告書が4月に公表される予定ですが、それまでに事態は沈静化しているでしょうか。

さて、協会の業務ですが、「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」については、令和3年度新規課題採択のための評価委員会などを開催しました。

「環境研究総合推進費」については、企画委員会、追跡評価専門部会が開催されました。

マイクロプラスチックを含む海洋ごみに関するモニタリング手法の調和等に向けた検討業務では、3月11日に海洋プラスチックごみ学術シンポジウムが約500名の参加を得てWEB開催されました。http://www.env.go.jp/water/post_125.html

オンラインの気軽さからかチャット機能を使って多くの質問が寄せられました。遠隔地からの参加も容易で登壇者の表情も大きく映るので、会場での談笑ができないなどのデメリットがあるものの、シンポジウムの場合には対面での開催よりも総合的には優れているといえるかもしれません。

3月末には令和3年度第2回理事会を開催し、令和4年度予算の承認などを行っていただきました。概要を3~4ページに載せています。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



「食と旅と環境つれづれ話」(5)

新田 裕史(環境研究総合推進費プログラムアドバイザー)

食品ロスを英語でなんというのだろうと思って調べて見ると、食品ロスと英語の Food Loss との違いや食品廃棄物、Food Waste など、似たような言葉でも微妙な違いがあるようです。細かい定義の話は他に譲るとして、肝心なことは「食べられる物を食べずに棄てる」ということだと理解しました。ただ、ある食品全体やその特定の部分が食べられるかどうかを一律に判断することやその量などを調べることは難しいように思います。食文化という言葉があるように、ある食物を食べるか食べないかには、地域の歴史・文化、それぞれの家庭の生活スタイルなどさまざまな要素があり、食べられるのに、習慣的に食べないということもたくさんあります。例えば、魚で可食部といったら、身(フィレ)だけを思い浮かべる人も多いと思いますが、魚の肝、卵、白子など内臓や頭、目玉、皮などを美味とする人もいます。昔、米国ボストンに暮らしていた時に、新鮮な地魚が手に入るという評判の魚屋で、刺身にできそうなカレイを見つけて、これをくださいと言ったら、店の主人がハサミでカレイのエンガワを切り落とそうとしたので、思わず大声で制止したことがありました。

芸術家であり、美食家としても有名な北大路魯山人が魚の肝について書き残して(注)、特に美味しいものとして、はも、たい、かわはぎ、ふぐ、あんこう、うなぎ、たら、を挙げています。一番は鱧(はも)で、身も美味しく、肝だけではなく内臓全部、腹子も美味しいと書いています。残念ながら、東北人の私は京都に旅行した際に湯引きした身しか食べたことがありません。鱧は暖かい海に生息し、東北三陸の海ではほとんど獲れないため、実家の食卓では見かけなかったのだと思います。鯛の肝も食べた記憶がありません。私の鯛のイメージは父が宴席から持ち帰った折箱に入っている冷めた尾頭付きの塩焼です。自分で鯛を下ろして、肝まで食べようと思っ

たことはありませんでした。ふぐの内臓のうち白子も種類によっては食べられ、大変高値ですが美味です。猛毒といわれるふぐの卵巣を糠漬けにして食べる地域もあるようで、食文化の奥は深い。魯山人お勧めの肝で私が定期的に食べているのは真鱈です。正月になると東北三陸から産地直送で一匹分を各部位に切り分けられたセットを購入して、身は刺身かしゃぶしゃぶ、さらにフライや鱈ちり鍋で、肝とアラは味噌汁やアラ鍋で、白子は軽く湯通ししてポン酢と天ぷらで食べます。白子の天ぷらは高温の油で、衣はサクッと中はレアに揚げるのが腕の見せ所です。魯山人のお勧めに出てこない魚の肝の中で、私が子どものころから数多く食べたと思うのはドンコ(エゾイソアイナメ)という魚の肝です。昔はとにかく安くくてコスパの良い魚だったらしく、身と肝がまるごと入った味噌汁が冬は頻りに食卓に上っていました。

最近、生魚にはアニサキスという寄生虫が入っているから要注意という表記をよく目にします。特に内臓にはアニサキスが多いため、美味しいとわかっていても肝を廃棄することもあるらしい。ふぐ毒の例と同じように美食にリスクはつきものなのか。

魯山人は会員制料亭を開いていたことがあり、自ら板場に立つこともあったらしい。「料理は道理を料(はか)るもの」という短文(昭和10年作、注)には、自分が調理をすると大根の皮などまで使い尽くすので、料理材料のゴミが3分の1に減るといことが書かれています。魯山人はコミック「美味しんぼ」の海原雄山のモデルとも言われている通り、いろいろな評判があった人物のようですが、食品ロス問題の先駆者だったのかもしれない。

注) 平野雅章編・北大路魯山人著、魯山人味道、中公文庫



令和3年度 第2回通常理事会報告

令和4年3月24日、令和3年度第2回通常理事会がAP東京丸の内にて開催され、令和4年度の事業計画と予算が承認されました。

業務執行状況報告

令和3年6月下旬から令和4年3月中旬までの間の業務執行状況は、以下のとおりである。

1. 自主事業

(1) 会誌の発行

和文会誌「地球環境」は、「地球環境モニタリング等の活動30年の歴史と将来展望」を、英文会誌「Global Environmental Research」は、「Ensuring Sustainable Consumption and Production Patterns in Southeast Asia」をそれぞれ発行した。

(2) 国際環境研究協会ニュースの発行

法人会員、個人会員、学会会員向けに「国際環境研究協会ニュース」第300号から第309号を作成して送付した。

(3) 会員に対する情報提供

法人会員、個人会員及び一般会員に対し、協会が受託した事業内容の情報等をメルマガで提供した。

(4) エコアクション21の推進

協会における省エネなどの環境管理を進め、令和3年9月に2020年度の「環境経営活動レポート」を作成・公表した。

2. 受託事業

令和3年度には、環境省から4件の事業を受注・実施した。

環境省事業

(1) 環境研究総合推進費制度運営・検討委託業務

プログラムディレクター1名、プログラムアドバイザー2名を配置して、環境研究総合推進費の改善に向けた助言、行政ニーズ形成支援、制度評価結果フォローアップ等を実施した。

(2) CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業管理・検討等事業委託業務

プログラムディレクター1名、プログラムオフィサー5名を配置して、CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業の効果的・効率的な実施を支援した。また、新規事業の提案を予定している応募者等に対して、随時応募相談会も実施した。

(3) マイクロプラスチックに関するデータ共有システムの要件定義書案等作成に係る検討業務

海洋マイクロプラスチックに関するデータ共有システムの要件定義書案等の作成、データ共有に関する国際連携の検討を行うとともに、国際専門家会合及びシンポジウムの開催を行った。本業務はいであ(株)と共同実施した。

(4) 地球環境保全試験研究費における評価支援業務

地球環境保全試験研究費に係る事前評価・中間評価・事後評価の支援等を行った。

令和4年度事業計画

引き続き、産官学の研究者・技術者、行政官及び市民の相互の情報交換や国際的な交流の促進、また、環境研究・環境技術開発の推進に貢献することを目指し、協会会員と連携して次の事業を展開する。

1. 運営管理

(1) 総会及び理事会

一般社団法人の定款に基づき、通常理事会を年2回(5月・3月予定)、定時社員総会を原則として年1回(6月予定)開催する。

(2) 企画総務部会

協会の適切な運営を図るため、必要な都度、企画総務部会を開催する。

2. 自主事業

(1) 会誌の発行

会誌編集委員会を適宜開催し、和文会誌「地球環境」及び英文会誌「Global Environmental Research」を発行する。

(2) 情報交流推進に関する事業

①国際環境研究協会ニュースの発行

会員向けに「国際環境研究協会ニュース」を毎月発行する。

②会員等に対する情報の提供

会員のほか、会誌や協会ニュースの執筆者に対し、協会が受託した事業内容の情報等をメルマガ「AIRIES メールニュース」で提供する。

③エコアクション 21

エコアクション 21 の認証を維持していくために、協会の環境管理を徹底する。

(3) 地球環境保全に関する調査研究事業

気候変動、循環型社会形成、生物多様性保全など幅広い環境問題に関して、環境省をはじめとした各関係機関の施策の動向に関する情報を収集する。

(4) 広報事業

引き続き、協会ホームページの更新・改善を行う。

3. 受託事業

環境研究・技術開発に係る競争的資金の制度運営等に関する業務に重点を置き、環境省等が公募する調達案件の受注に努める。

令和 4 年度予算

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増 減 |
|---------------|-------------|-------------|-------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| I. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 入会金収入 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| 会費収入 | 1,205,000 | 1,205,000 | 0 |
| 事業収入 | 180,000,000 | 188,000,000 | ▲ 8,000,000 |
| 雑収入 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 経常収益計 | 181,415,000 | 189,415,000 | ▲ 8,000,000 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 105,800,000 | 111,500,000 | ▲ 5,700,000 |
| 自主事業費 | 3,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| 受託事業費 | 102,800,000 | 108,500,000 | ▲ 5,700,000 |
| 管理費 | 75,615,000 | 77,915,000 | ▲ 2,300,000 |
| 経常費用計 | 181,415,000 | 189,415,000 | ▲ 8,000,000 |
| 当期経常増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | 0 | 0 | 0 |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 一般正味財産期首残高 | 120,833,827 | 101,930,100 | 18,903,727 |
| 一般正味財産期末残高 | 120,833,827 | 101,930,100 | 18,903,727 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| III 正味財産期末残高 | 120,833,827 | 101,930,100 | 18,903,727 |



業務日誌

(2022年3月)

3/1(火):推進費制度 第3回環境研究企画委員会を開催
(Web会議)

推進費制度 追跡評価専門部会事前説明(Web会議)

2(水):マイクロプラ事業 事前説明(Web会議)

3(木):CO2 対策事業 新規採択分科会(社会システム分野)
を開催(AP東京丸の内)(Web会議)

4(金):CO2 対策事業 新規採択分科会(バイオ分野)を開催
(AP虎ノ門)(Web会議)

マイクロプラ事業 国際専門家会合を開催(ウェビナー)

8(火):CO2 対策事業 新規採択分科会(交通分野)を開催
(AP東京丸の内)(Web会議)

9(水):CO2 対策事業 新規採択分科会(建築分野)を開催
(AP東京丸の内)(Web会議)

10(木):CO2 対策事業 新規採択分科会(再エネ分野)を開
催(AP東京丸の内)(Web会議)

11(金):推進費制度 第3回追跡評価専門部会を開催(Web
会議)

14(月):推進費制度 行政ニーズ意見交換会に出席(Web会
議)

CO2 対策事業 検討会に出席(Web会議)

CO2 対策事業 打合せ(協会)

15(火):CO2 対策事業 検討会に出席(出雲)

16(水):推進費制度 行政ニーズ意見交換会に出席(Web会
議)

CO2 対策事業 検討会に出席(四日市)

CO2 対策事業 打合せ(Web会議)

17(木):CO2 対策事業 打合せ(Web会議)

18(金):第2回企画総務部会を開催(Web会議)

推進費制度 行政ニーズ意見交換会に出席(Web会
議)

CO2 対策事業 第3回評価委員会を開催(AP東京丸
の内)

22(火):行政ニーズ意見交換会に出席(Web会議)

23(水):行政ニーズ意見交換会に出席(Web会議)

24(木):令和3年度通常理事会を開催(AP東京丸の内)

29(火):CO2 対策事業 打合せ(Web会議)

30(水):行政ニーズ意見交換会に出席(Web会議)

*推進費制度:環境研究総合推進費制度運営・検討業務

CO2 対策事業:CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・
実証事業管理・検討等事業

マイクロプラ事業:マイクロプラスチックに関するデータ共有シ
ステムの要件定義書案等作成、技術的課題
に係る検討、国際連携に係る検討等業務

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail:airies@airies.or.jp

Homepage:http://www.airies.or.jp

